

第3表

項目 時刻	冷却度(気温差)°C		湿度(%)		
	18~ 22時	22~ 6時	14時	18時	22時
地名					
嘉万	4.2	2.3	75.0	91.4	93.3
豊岡	3.5	2.4	62.3	84.5	95.4

(ただし、豊岡1943・1944, 嘉万1973, 自記紙より)

日本一霧が多いといわれる豊岡盆地の冷却度と比較したのが第3表である。18時~22時の冷却度は嘉万が大きく、22時~6時までではほとんど同じである。

湿度の高い原因として、盆地を厚東川が流れていること、水田が多く日射による蒸発で蒸気が盆地に蓄積されやすいことなどがあげられる。

(iii) 河川水温と気温との差による蒸発があること。

盆地内を流れる厚東川の水温は、11月~3月の間では13°C~14°Cで水温と気温の差が相当大きい。水温は3ヵ月間に、0.5°C位しか変化していないのに、気温は10度も変化している。水温と気温の差が相当大きくなると、水面から蒸気がたつのが目で見られるようになり、蒸気霧が発生するようになる。しかし、放射霧の場合には、気温の冷却の影響が大きいことは、豊岡盆地や、人吉盆地の調査で確かめられている。

あとがき

カルスト地形のひとつであるポリエ(嘉万ポリエ, 秋

吉ポリエ)の霧の研究を短期間であるが行い、かなりの結果を得たので報告した。当地域も他の濃霧発生の地域と同様の原因や結果があることがわかった。今後の問題としては、継続して観測を行うこと、そしてまた霧の発生・消滅の機構をさらに詳細に調べること、あるいは、霧の粒子と気象との関係をつかむことなどである。

謝辞 この研究は昭和48年度財団法人山口県教育財団にかかる調査研究等補助金(山教財第36号)を使用した。終始ご指導を賜った徳山大学教授山本武夫先生に謹んで感謝の意を表す。また、山口測候所、田辺剛所長の有益なご助言に対しても深謝する。さらに、調査には秋吉台科学博物館の配川武彦氏にご協力いただいた。なお、観測機器は一部山口大学、秋吉台科学博物館のものを使用させていただいたことをあわせて感謝する。

文献

- 浅井辰郎, 高橋 茂, 1962: 山口県伊佐付近の内陸霧について, 天気, 4, 10-14.
 花沢正策, 小堀龍一, 1954: 豊岡地方の霧について, 研究時報, 6, No. 12, 67-70.
 大阪管区気象台・豊岡測候所, 1954: 1952年秋の豊岡盆地観測報告, 研究時報, 6, No. 12, 58-66.
 大阪管区気象台・神戸海洋気象台, 1954: 瀬戸地方の霧について, 研究時報, 6, No. 12, 46-57.

(704ページのつづき)

- d-9 サンシャイン計画について (8)
 d-10 maximum entropy method について (9)

- d-11 模型風洞実験について (10)
 d-12 大気電場はどのようにして測定するか (12)

編集後記

○ いよいよ新メンバーで編集業務を担当することになりました。以前にも増してよろしくお願い致します。本号に投稿規定を一部訂正して掲載致しましたが、論文などの送付先は今後次のようにして下さい。

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
 日本気象学会「天気」編集委員長

内 田 英 治

○ 秋の大会も終わったことすし、各支部の講演会も大部分終わったようですので、続々論文をご投稿下さるよう、お待ちしております。講演発表だけに終わらせず、どんな些細なものでも活字にしておくことが大切です。